

ニュージーランドとの姉妹都市交流で得たもの

ヨーロッパ経由で南半球へ渡った日本資料

小樽市総合博物館館長

土屋 周二

「自分はキウイ」

ニュージーランドの人々は、自分たちのことをキウイと呼ぶ。キウイとはニュージーランドを代表する鳥のことであるが、彼らは自分たちをそう呼ぶことよってニュージーランド人としての誇りを表す。

日本とニュージーランドの国交55年を記念して「ニュージーランドパライスイーク2007」が昨年11月17日から東京の六本木ヒルズで盛大に開催され、その前夜祭特別ディナーに出席した。会場では今回のためにニュージーランド本国から来日したサンダース外務・観光大臣らが自ら招待客を出迎え、ロビー交流を進めていた。

前夜祭は着席式の正規な形で始まり、最初にクラーク首相からのテレ

ビメツセージ、次いでサンダース外務・観光大臣、ケネディ大使、ラグビー日本代表チームのカーワン監督、歌手のヘイリーなど多彩なゲストが日本との交流の大きな意義を時にはユーモアを交えながらスピーチした。その中でも自分たちキウイはという言葉と違和感無く使って、それを表していた。日本人なら自分たちのことを誇りをもって形容するとしたら何と云うだろう、などと考えながら華やかに練り広げられる前夜祭に見入った。

北海道に近いニュージーランド

国交が結ばれて55年、その歴史以上のかかわりを感じさせるのは、両国間で提携されている姉妹都市数、全国45市町村という数の多さにある

のかもしれない。

ニュージーランドの広さは、日本より一回り小さく、全国面積から四国を除く程度、人口は約四百五十万人、人口密度にいたっては1平方キロ当たり十五人。日本の三百四十三人と比べて言い換えると、日本全国に北海道民規模の人々が生活しているという、何ともうらやましい国である。気候は南半球に位置するため日本と夏冬が逆であることを除くとほぼ同じで、沖縄のような地域もあれば北海道のような地域もある。火山があり温泉があり水河もある南北に細長い二島の島国で、生物相に特有種が多いのも特徴とされる。肉食獣は生息せず、蛇にいたっては今も生息しない。

生い立ちも北海道とよく似ている。先住民族としてマオリの存在が

あり、1770年ごろからイギリス系移民が始まり、現在に至り、中でも小樽と姉妹都市のダニーデンは古くからその移民の玄関港として栄えた。北海道はアイヌ民族の地に日本各地からの移民によって開拓が進められ、小樽も同じようにその玄関港として栄えてきた。

政治体制は立憲君主制をしき、国家元首は連合王国国王のエリザベス二世で、アナンド総督がその代行を務めている。そして日本全国の四十五カ所に及ぶ都市との間で姉妹都市提携がなされていることもあり、きわめて親的な国といえる。

そうしたニュージーランドの都市と日本で最初に姉妹都市提携したのは1973年、岡山県倉敷市とクライストチャーチ、次いで京都府宮津市とネルソン、3番目に苫小牧市と



公開調査を知らせる現地の新聞



ダニーデンで発見された薩摩焼

ネーピア、そして1980年、4番目に小樽とダニーデンが提携し、現在国内四十五カ所、北海道内五カ所の市と町が様々な縁で姉妹都市提携をし、交流を続けている。こうした両国の交流を見るに日本とニュージーランドはとても近い国に感じる。

日本資料の調査で

そのニュージーランドとかわりを持つようになったのは小樽とダニーデンが姉妹都市提携して十年を経た1990年、文化交流担当のM・

サイファート氏からの、ダニーデンの日本資料調査依頼から始まった。正直に言ってそれまで、ダニーデンと姉妹都市関係にありながら、その活動はマトンの輸出入港として、経済的活動を主体とするイメージが強く、積極的に参加することもなく、漫然と南半球の島国で、自然環境保全に熱心な国、程度の知識しか持ち合わせていなかった。しかし、その程度の予備知識しか持っていないが、た国ではあったが、どのような日本資料があるのか強い興味をいだき、協力依頼を受諾した。以来、ニュージーランドを幾度となく訪問し、知れば知るほど、尽きること無い魅力にのめり込んでいった。

資料という特徴があった。そして翌年、六人の専門家からなる調査チームを編成し再び調査が進められた。中でも休日返上で実施した一般市民が保有している資料の公開調査は多くの市民の好感を呼んだ。

資料が渡ってきた経路を調べると、ニュージーランドと日本は歴史的に意外と近い関係にあったことが見えてきた。安政元（1854）年3月、幕府はアメリカと親条約を結び開国し、8月にはイギリスと同様の和親条約を結ぶ。その後、明治新政府の成立と共に日本の近代化は一気に進み、その担い手をイギリス人をはじめとするヨーロッパからの外国人技術者たちが担うこととなった。そして彼らの任期明けに政府や要人から贈呈された品、あるいはお土産として自ら買い求めた品がそれぞれの母国に渡る。こうして多くの外国人技術者として来日していたイギリス系の人々によって大量の日本文物が渡り、それが19世紀後半に移民と共にニュージーランドに渡っていた。時代的にはともかく、日本の資料が大陸を越えてヨーロッパに渡り、ヨーロッパから南半球へと長い旅を経ての資料に熱いものを感じた。



日本展「雅」会場のダニーデン美術館正面



日本展「雅」会場入り口



日本展「着物」会場入り口サイン＝オタゴ博物館で



日本展「着物」会場内部



オタゴ博物館スタッフの教育プログラム実践＝小樽市博物館で

以来、今日まで日本関係資料が取り持つ縁でほぼ毎年、休暇を利用して訪問を続け、資料の修復、展示手法、解説文等々におけるお手伝いをしてきた。共に作業をするそれぞれの館スタッフは日本の資料を日本人よりも大切に扱うと感じさせるほど真摯に取り組む。そうした姿勢が、また来年も手伝いに来ようとする気持ちにさせた。

彼らの日本資料に対する思い入れでこんなこともあった。根付と印籠を結び組み紐の劣化が進み、その体を成していないことが気になり、日本で修復したいと申し入れた時、そこまでお願いできないと丁寧な修復を断られたことがあった。数年後、

より親しくなった同じスタッフに再び同じ申し入れをすると、前回の断った理由を明かしてくれた。日本の資料は、日本で修復すると戻ってこないことを知っているから、断った。日本の資料は得がたい貴重な資料とする思いは理解できるが、日本資料とはいえ所有者が明確なものに對して、それを理由はともあれ、一度日本に戻すと返されたいと思っていることに、驚き以上の笑いが出てしまった。どのような情報から、そうした誤解が生まれているのかと不思議にすら思えた。一息入れて、日本ではそのようなことは全く無いことを説明し納得していただき、日本の修復にこぎ着けることができ

た。そうした彼らの日本資料に対する思いを幾度と無く感じさせられてきた。

南半球の決して大国とはいえないニュージーランド。親しくなった友人たちは一度でよいから日本を訪問したいとよく言う。彼らの日本感には、歴史と伝統を大切にしながら、ハイテク世界をリードする国。大都市と人口も多いが林も多く、自然環境豊かな国。そして日本人は礼儀正しく誠実。だからあこがれも強い。そうした日本を、北海道をもっとも誇っていいと思う。

交流と叙勲

日本関係資料が取り持つ形で博物館交流も盛んになり、平成11（1999）年以降、幾度かの展示会も開催された。平成14（2002）年にはオタゴ博物館所蔵のマオリコレクションを中心に大規模なニュージーランド展を小樽で開催し、平成17（2005）年には姉妹都市提携25周年を記念した日本展をオタゴ博物館とダニーデン美術館の二館で同時開催した。いずれも大好評を博したが、特に博物館、美術館のスタッフによって企画された日本展は多くの



ニュージーランド政府から勲章を授与される紋付き姿の筆者（左端）

日本人にも賞賛された。事前の日本文化に関する調査も展示手法も時間をかけて綿密に練られ、完成した会場は日本より日本らしい雰囲気を出していた。

その前年、ニュージーランド政府が、筆者のこれまでの文化交流活動に対してオーダーメリット勲章を授与すると伝えてきた。もとよりそうしたことには無縁の世界と思い込んでいたし、勲章は展示することはあっても、いただくことは無いと思っていた。むしろ仕事にかかわる比較的地味なお手伝いと思えることでも、それを評価し推薦してくれる人がいる国民性に驚いた。勲記には最上部に国家元首のエリザベス女王がサインを記し、その下に英語とマオリ語の併記で叙勲内容、そして最下部に総督のサインが入る。勲章は本勲章と略勲章、襟章の3種類からなり、式典内容によって使い分ける。現地の友人によると、推薦を受けるのと極秘のうちに特務機関が素行調査に入り、問題なしと判明してからバッキンガムでエリザベス女王のサインが入るとのこと、悪い前歴がなくてよかったと冗談交じりに話してくれた。そして、日本人だから、授与式は背広や礼服より紋付きが良いと

アドバイスをしてくれた。何しろ全てが初めてのことにだけに知らないことばかり、緊張の上で授与式に臨んだことを思い出す。

あこがれの日本文化

これまでニュージーランドとかかわって、彼らから教わったものは多い。姉妹都市などで国際交流活動を行うのに、身構える必要は無いと思っている。いつもの自然体で参加することが継続性を裏打ちする。ただ、自分たちの町の歴史や伝統を正しく認識する必要性は強く感じる。ニュージーランドのみならず、海外の友人たちがあこがれる日本を、今、私たちが忘れかけているような気がしてならない。歴史も自然環境も異なる都市同士との交流を進展させるには、相手側の自然と文化を理解することから始め、お互いに歴史や自然を基盤とした文化に誇りを持つて紹介、提供しあえるようになることが望ましい。海外の人々から日本文化の素晴らしさを指摘され、再認識するより、ごく身近な生活の中に伝え残されている伝統をとらえ、次の世代に伝えていく努力は続けたい。

D.Mの取扱いは、すべてSMS札幌メールサービスにおまかせ下さい。
あらゆるニーズに迅速にお応えいたします！

■ダイレクトメールの発送処理

- 宛名筆耕、宛名印刷
- ラベリングマシンによる宛名データ貼付
- 封入、封印 ●帯封掛
- 郵便料金減額作業
- 市内特別郵便の処理、各局発送
- リストカード作成
- 顧客カードの管理、保管
- その他、DM作業全般

■商品管理、梱包、発送

■サンプリング及び宅配

■リスト

■プレミアムキャンペーンの応募
郵便物の整理、集計及び発送

■街頭配布

■その他、セールスプロモーションのあらゆる作業をいたします。

ダイレクトメール総合代理店
SMS札幌メールサービス
☎065-0008 札幌市東区北8条東11丁目1番39号
☎(011)704-2111(代)
FAX(011)704-2121